



わたしたちの日本一美しい村

2015

広報

しらかわ

11月号
No.532



白川郷荻町集落の自然環境を守る会実施による世界遺産20周年記念事業。
10月30日に参加者50名により茅刈りを行い、刈りとった茅と白川中学校の茅刈り体験で刈りとられた茅で11月9日に60名の参加者を迎え世界遺産集落内に記念モニュメント「茅ニュー」を作りました。

世界遺産登録20周年記念事業 「われらがつくる茅ニュープロジェクト開催!!」

CONTENTS

平成26年度白川村決算報告	2・3
第2回ワカモノ未来会議を開催しました	4
すこやかだより	5
白川郷学園コミスクだより	6・7
柿じいの白川遺産学セミナー報告	8

平成
26年度

白川村決算報告

10月1日、村議会第3回定例会において、平成26年度一般会計・特別会計の決算が認定されましたので、その概要をお知らせします。

村は第6次総合計画に基づいた美しい村づくりを推進し、村民の生活環境及び利便性や、安心安全かつ豊かな暮らしの向上に資する施策を実施するとともに、第5次行政改革大綱による行財政改革を進め、健全財政の向上に努めてまいりました。一般会計の歳入決算額は、対前年度比6,103万円増額の33億7,348万円となり、7特別会計の歳入合計を合わせた村の歳入総額は、43億5,158万円です。これに対し、一般会計の歳出決算額は、対前年度比2,896万円増額の32億353万円であり、特別会計歳出合計を合わせた村の歳出総額は、41億4,468万円です。歳入歳出ともに前年度より若干の増額となりました。

実質収支額は、翌年度への繰越事業2億3,743万円のうち、一般会計歳入歳出差し引き額1億6,995万円から、翌年度へ繰り越すための一般財源4,015万円を差引いた1億2,980万円となりました。

一般会計の歳入のうち、最も大きなものは「地方交付税」の11億5,362万円で、歳入全体のおよそ3分の1を占め、次に大きなものは「村税」の7億276万円で、歳入全体のおよそ5分の1の財源となっています。

次に一般会計で実施した主な事業等についてご報告します。26年度最大の投資的経費は、社会資本整備総合交付金事業3億7,334万円の他、中学校体育館耐震等改修事業8,465万円及び学校施設整備事業5,028万円を支出しました。

特別会計にあっては、国民健康保険直診勘定部において新白川診療所移転新築事業1億789万円が主な事業となっています。

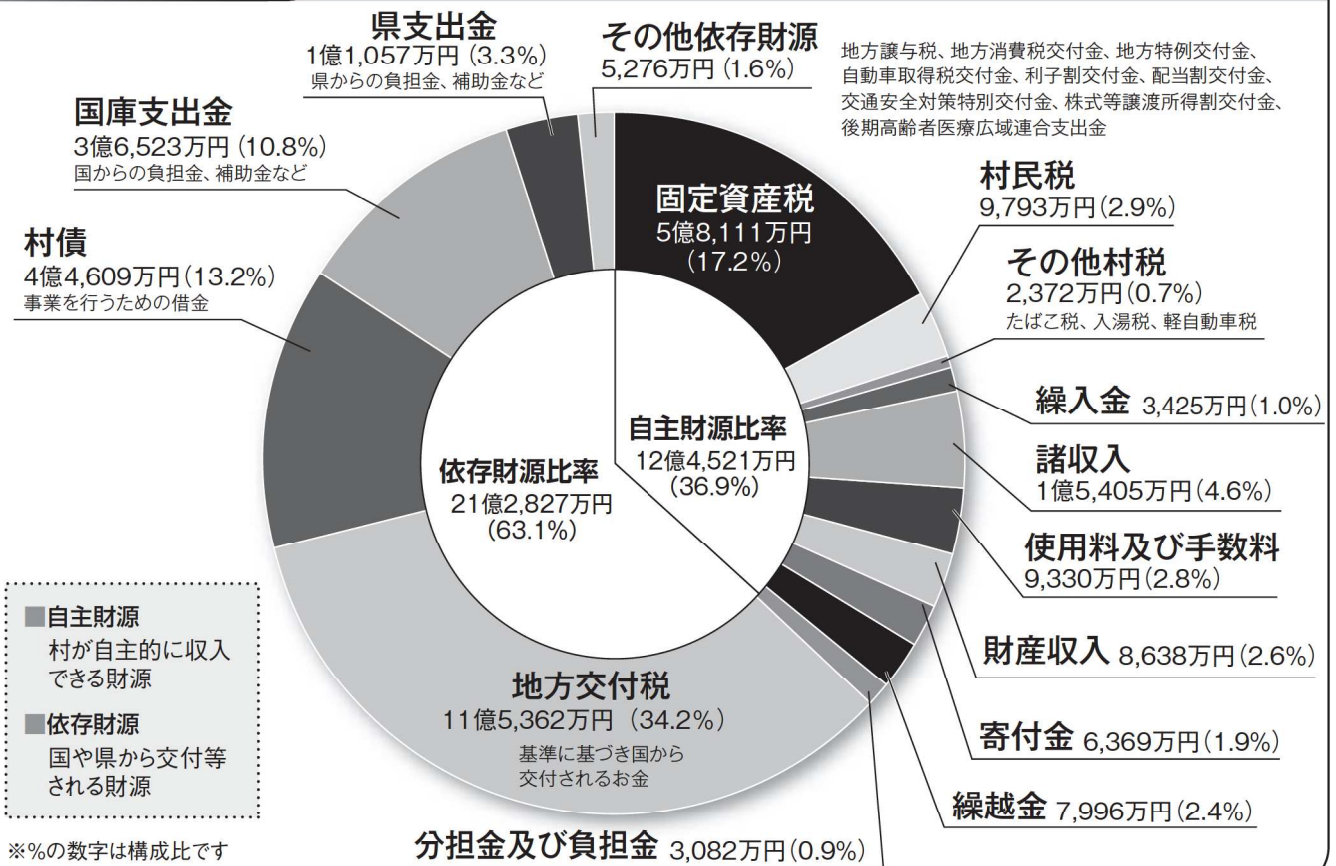
決算に係る主要な施策の成果については、白川村ホームページに詳しく掲載していますのでご覧ください。

(※記事中の金額は万円未満切捨て表示です)

一般会計

歳入

総額33億7,348万円



会計別歳入歳出決算額・村債残高一覧

会 計	歳 入	歳 出	年度末村債残高	
一般会計	33億7,348万円	32億353万円	31億273万円	
特 別 会 計	国保事業会計	2億2,856万円	2億1,594万円	0万円
	国保直診会計	2億307万円	1億9,638万円	8,240万円
	簡易水道会計	6,880万円	6,849万円	4億2,558万円
	温泉開発会計	8,019万円	7,847万円	8,188万円
	白弓スキー場会計	2,683万円	2,467万円	523万円
	公共下水道会計	1億4,150万円	1億3,955万円	1億8,785万円
	介護サービス会計	296万円	58万円	0万円
	介護保険（事業勘定）	2億99万円	1億9,200万円	0万円
	後期高齢者医療	2,520万円	2,508万円	0万円
	特別会計合計	9億7,810万円	9億4,116万円	7億8,294万円
全会計合計	43億5,158万円	41億4,469万円	38億8,567万円	

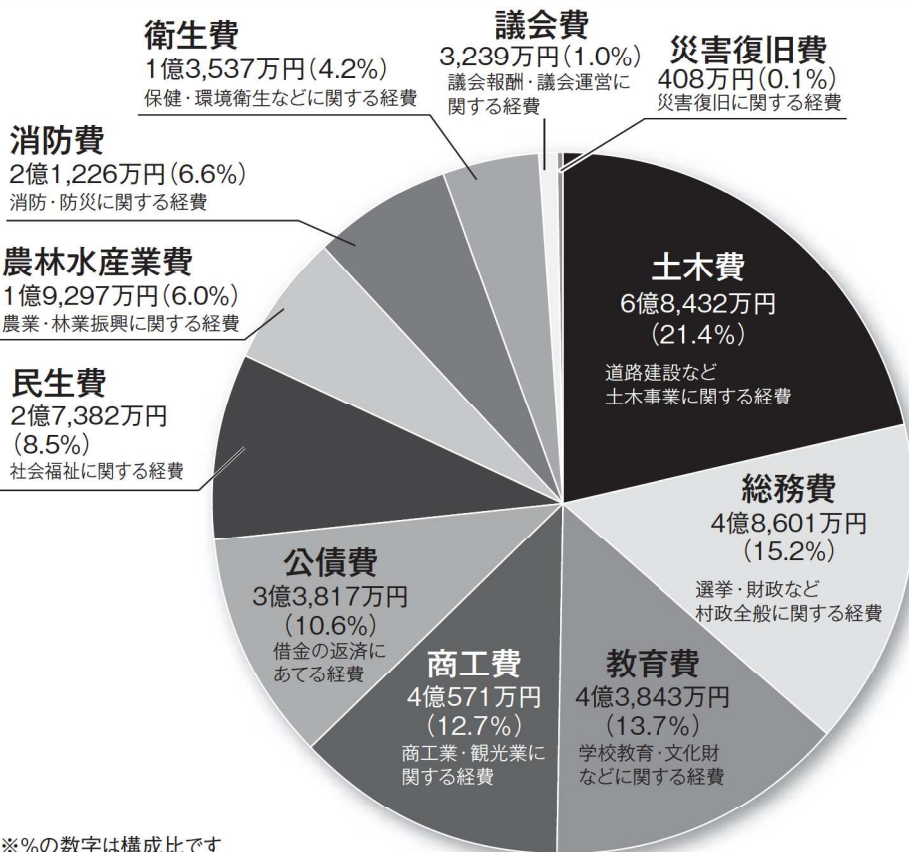
◆村民1人あたりの一般会計金額は（平成27年4月1日現在の人口1,657人で算出しています。）

支出額	1,933,331円（対前年度比 34,216円増）
基金	1,751,772円（対前年度比 67,323円増）
地方債	1,872,498円（対前年度比 130,663円増）

総額32億353万円

一般会計

歳出



■財政力指数 0.314

自治体の財政の豊かさを表す指標です。基準値を1として、1に近いほど財政状況が良い（豊かである）といえる数値です。

■経常収支比率 70.2%

自治体が人件費や生活保護費、借金の返済など避けられない経費に村税や地方交付税などの特定の収入に対してどれだけ充てられているかを示す指標です。率が低ければ財政的に余裕があり、独自の政策のための経費により多くのお金を回すことが可能となります。

第2回 ワカモノ未来会議を開催しました

国の地方創生による総合戦略と、村の総合計画を策定するため、将来を担うワカモノによるワークショップを開催しました。今回は村の青年会にご参加いただき、村の未来を熱く語っていただきました。議論では具体的な、すぐに取りかかることが出来るアイデアも生まれ、とても実のある会議となりました。

ワカモノ未来会議の参加者

役職	氏名	男女	地域等
会長	田中 克弥	男	牧
	高島 祐哉	男	平瀬
	高橋 淳	男	地域おこし協力隊
	手塚 洋平	男	荻町
	和田 真樹	男	荻町
	宮脇 怜也	男	飯島
	二俣 慎弥	男	鳩谷 (移住)
	加門 絵梨	女	木谷 (移住)
	中谷紗矢香	女	芦倉



青年会の在り方

現在、青年会には南部12名、荻町9名、大郷14名が所属している。地域によっては25歳以下の青年がいない。青年会の定義はないが、村へ帰ってきてても青年会に入らない若者もいる。魅力がないのか。先輩風をふかせ、地域から行事を押し付けられる。やらなければならない責任感がのしかかる。辛い。しかし、自分たちで企画した行事は大変だが楽しい。やり遂げたときに若者の結束力が増す。これが青年会の魅力ではないだろうか。他地域の青年会との交流会や女子会、そして学生との交流もしたい。

働く場の創出

村に住み村外就業した場合、村から通勤費助成があることを知らなかった。内容や目的を聞くととても良い施策だと思う。起業者支援助成も同じ。どちらも支援や助成をより充実し、戦略的に若者にPRすればUターンも増えると思う。例えば高校や大学で就職を考える時期を狙ってPRしてはどうか。地元出身の高校生や大学生の集う機会を設けてPRしたり心境の変化を探ったりするのもよい。とにかく受け身ではなく、帰ってきてほしいという姿勢を積極的に村は見せるべき。



ホテル誘致はなぜなくなったのか。ただ反対するのは変。ホテルが建設されれば雇用も生まれるし居酒屋や飲食店も活性化する。民宿も簡単に合掌を守っているわけではないことは理解出来る。守るためにもお金がいる。そのために稼いでいるわけだが、何とかホテルとの共存は出来ないものか。ホテルにはないもの、白川郷らしいおもてなしを前面に出して、合掌民宿のおじいちゃんやおばあちゃんの“あたたかさ”を上手く引き出し、これを資源としてブラッシュアップすれば観光に幅を利かせられるのではないか。

若者が村に帰ってこない理由は何か

子ども時代からの変わらない関係性。村に帰ってきてても自分を見つけられず再び村外に出る若者もいる。しかし、社会の中で自分を築くことは他人ではなく自分の力で築くもの。大人が感じる村の良いところが案外若者には苦痛を感じる。白川郷学園では地域に根ざした教育環境で郷土愛を学ぶ。しかし、学園



を卒業すると、これが一気に希薄化して新鮮な外の世界に魅力を感じる。外の世界を見ることは良いことだが、一方でこれまで気付かなかった村の魅力学ぶ機会を設けることで、村との関りを繋げられるのではないか。村外で暮らす村出身の子ども達に村を身近に感じてもらうため、村から積極的に広報しらかわを送ってはどうか。そして戦略的に就職情報や村外通勤費助成、起業者支援情報などを掲載する。若者が将来設計を決める選択の土俵に村は積極的にのるべきだ。

インフルエンザ対策をしましょう!

◆インフルエンザとは

インフルエンザウイルスに感染して起こります。咳やくしゃみの際に口から発生する小さな水滴（飛沫）によって感染します。いったん流行が始まると、短期間に多くの人へ感染が広がります。例年12月～3月頃に流行します。お子さまや高齢の方、免疫力の低下している方は重症化しやすいので注意しましょう。



◆症状

38℃以上の発熱、頭痛や関節痛・筋肉痛などの全身症状が急に現れます。

インフルエンザ対策

①流行前のワクチン

②咳エチケット

- ・他の人に向けて咳やくしゃみをしない。
- ・咳やくしゃみが出る時は、マスクをする。
- ・手のひらで咳やくしゃみを受けたら、手を洗う。

③手洗い

付着したウイルスを洗い流します。また、アルコール製剤による手指の消毒も有効です。

④部屋の適度な湿度（50～60%）

空気が乾燥すると、気道粘膜の防御機能が低下し、インフルエンザにかかりやすくなります。

⑤十分な休養とバランスのとれた食事

体の抵抗力を高めるために日頃から心がけましょう。

⑥人混みへの外出を控える

やむを得ず外出して人混みに入る可能性がある場合は、マスクを着用しましょう。ただし、人混みに入る時間は極力短くしましょう。

インフルエンザに
かかってしまったら...

- ・早めに医療機関を受診しましょう。
- ・安静にして休養をとりましょう。
- ・睡眠を十分にとりましょう。
- ・咳やくしゃみなどがある場合は、周りへうつさないために、マスクを着用しましょう。
- ・外出を控えましょう。



はつらつ健康教室 参加者募集中! 旧白川小学校体育館でも開催決定!!



10月の広報でお知らせしました「はつらつ健康教室」ですが、現在も参加者を募集しています。

また、ご要望により鳩谷でも開催することになりました。

「平瀬まで遠いけど、参加してみたいなあ…」という方、ぜひお申し込みください。

両地区ともに11月下旬ころまで、追加申し込みを受け付けています。

- ◆内 容：健康体操（寝てする体操・床での体操・筋力アップ体操等）、健康の話、脳を刺激する実践メニュー など
（教室終了頃には、CDの音声を聞きながら、1時間程の体操ができるようになります。）

- ◆対象者：村内在住の概ね65歳以上の方
（要介護・要支援の方を除きます）
◆参加費：無料（ただし、飲み物等は実費）

平瀬会場

- ◆期 間：平成27年11月5日～
平成28年3月31日まで（全20回）
（毎週木曜日 午後1時30分～3時）
◆場 所：アオイ・カフェ（白川村平瀬）

鳩谷会場

- ◆期 間：平成27年11月6日～
平成28年3月25日まで（全20回）
（毎週金曜日 午前9時30分～11時）
◆場 所：旧白川小学校 体育館（白川村鳩谷）

【申込み・問い合わせ】 白川村役場 村民課 TEL 6-1311 主催：白川村役場、白川村社会福祉協議会

コミュニティ・スクール 白川郷学園 コミスクだより

【つなぐれ 地域と学校 大人と子ども】

白川郷学園学校運営協議会

動きだそう!白川びと として 担い手となる子どもたち 担い手を育てる大人たち

白川びとから学ぶ ～地域の知恵や技を子どもたちに伝えよう～

将来の担い手となる子どもたちに話した、見せたい、聞かせたいことがあるのだけれど、伝える場がなかなかない。そこで!学園の授業時間外を使って、子どもたちが「白川びとから学ぶ」機会を設けました。

10/9『荻町楽人保存会』の方々から学ぶ



【生徒の感想】

今日、荻町の祭の演奏を聞いて、私も荻町で小学生のころは稚児だったから聞いたことはあったけれど、楽器の特徴など初めて知ることがたくさんあり、とくに小さい楽器はすごい息が必要だと話されていて、すごい音が出ていたので驚きました。

(中1 水木 心愛)



今日は祭の音楽を聞きました。生で聞くことは初めてで、このような楽器を使ってあの様な音を出していたんだということがよく分かりました。白川村にはこのように守っていくものがいっぱいあるなと思いました。これからも残していけるといいです。

(中3 中森龍太郎)



初めて学校で雅楽を聞き改めてすごいなと思いました。学校に来て下さるのは初めてなので、このような結の貸し借りが白川村にはあることを良いと思いました。聞いていて、やっぱり今の雅楽や民謡、獅子は守っていかなければいけない大切なものだと思います。明後日から祭だけ、そういうところも見たいです。

(中3 大溝 琴)

芸能の鑑賞がありました。とてもすごかったです。私も踊っているけれど鳩谷はCDです。CDとは違う雰囲気でした。もうすぐ祭! (中1 沢田 汐音)

今日は祭の演奏を見ました。僕は荻町の祭に行ったことはあるけれど、演奏するところを見たことがなかったので見られてよかったです。

(中2 杉垣 聖海)

10/26 『白川村消防団ラッパ隊』の方々から学ぶ



【児童の感想】

ラッパ隊のみなさんへ

ラッパ隊の人は、リズムを合わせて強弱をつけていてすごいと思いました。特に集合の合図がすごいと思いました。また聞きたいです。(小2 水上 冬弥)

ラッパ隊の人がきれいな音で、指で音を変えるのではなく、口で音を変えるなんてすごいと思いました。わたしもラッパをふいてみたいです。

(小2 山下 虹恋)



ラッパはかっこよかったです。わざわざ忙しいところ来てくださってありがとうございました。ほくも消防に入ります。(小1 田中 祈里)

口だけできれいな曲をありがとうございました。わたしもラッパをふきたいと思いました。

(小1 打保 梨央)

みなさんも「15分間の学びの場」で子どもたちに伝えたいことはありませんか？
いろいろなジャンルの「白川びと」を探しています。ぜひご連絡下さい。

【学校支援部部長 山田俊行】

地域活動部 ～ふれあい登校週間をふりかえって～



8～10月に2回のふれあい登校週間を行いました。朝の忙しい中、子どもたちに声をかけてくださる地域の方の姿がとても温かく、子どもたちの心にも届いたようです。

《子どもたちの感想》

- ・あいさつを返してもらえて嬉しかったです。
- ・会話をして楽しかったです。
- ・地域の方のあいさつが大きかったです。
- ・朝から心が温かくなりました。

この活動で子どもたちとふれあっていた地域の方が、夕方の下校時に「ただいま」と子どもたちの方から声をかけられ、そこでも楽しい会話が弾み、子どもたちとの繋がりができたこの活動の良さを嬉しく感じてみえました。しかし中には、「誰にも会わなかった」「この活動に気付かなかった」といった子どもたちが寂しく感じている感想も多くあり、まだまだ地域の関わりが少ないことも分かりました。次回のふれあい週間では、更に多くの地域の大人の声かけで子どもたちと繋がっていきたいです。

子どもたちは待っています。たくさんの地域の方と朝のあいさつをすることを！
子どもたちは見えています。自分たちを支えてくれる地域の方の姿を！

第3回目：11/24～27 第4回目：12/15～18